

科目担当者氏名 (ふりがな) のせ まさはる 野瀬 正治		科目担当者連絡先 (メールアドレス)
連絡責任者氏名 (ふりがな) なかの やすと 中野 康人		科目設置機関名 関西学院大学 社会学部
授業科目名 社会調査実習 I	科目認定番号 KSGa-160707-0	受講者数 26人

**I. 調査実習に関するコメント**

学生が果たした役割や実習全般に対する感想など：  
 学生が自らの問題意識に基づいて積極的に調査に取り組むことを期待し、自主的に自ら創意工夫をして指示待ちでなく実習に取り組むようにした。学生の関心領域は広く、個人別に調査テーマを設定して取り組む方法もあるが、今回は、個人別のテーマを設定するのではなく幾つかのテーマに収斂するような取り組みを行った。

**II. 調査の企画・設計 (デザイン)**

1. 調査のテーマ/領域：  
 学生と社会との関係についての調査を、いわゆる経営社会学を中心とした領域で実施した。

2. 調査の内容/概要：  
 調査内容としては、企業社会における会社組織と社員との関係を中心テーマとしてとらえ、学生がどのような意識を持っているかを中心に調査を行うことにより、問題意識に対する独自の洞察を纏めることを狙った。

3. 調査の範囲/対象 (量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入)：  
 質的調査、量的調査、統計資料および文献調査を中心に実施した。

4. 主な調査項目：  
 ①プロフィール 性別/学年/所属, ②自身の雇用有無と種類, ③労働環境・雇用条件, ④学生生活への影響, ⑤パイトの理由, ⑥就職の動機, ⑦経済状況, ⑧雇用管理状況, ⑨賃金制度, ⑩企業風土

**III. データ収集の方法と結果**

5. データ収集 (現地調査) の方法：  
 関学の学生へのアンケート調査の実施。

6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数：  
 量的調査については2016年12月・関学上ヶ原キャンパスで実施。

7. 収集したデータの量と質への評価 (量的調査の場合は有効回収票数及び回収率を必ず記入)：  
 量的には不足でありさらに調査対象を増やす方法を考えたい。質的には学生への教育時間数が限られていることから考えるとさらに工夫を行いたい。(配布数105, 回収92, 有効回収率87.7%)

**IV. データ分析の方法と結果**

8. データ分析/解釈の方法：  
 量的調査については、単純集計およびクロス集計を中心に、カイ二乗検定やt検定なども行った。また、セカンダリ・データ等も利用して分析を行った。

9. 調査の成果 (調査から得られた主な知見など)：  
 性別について、賃金の履行状況を見ると5%の有意水準で、男性に比べ女性の方が期日が守られていなかったり、総額を正確に支払われなかったとの回答が多く、労働条件についての意識の差があるように思われた。また、女性の働く意識については、・女性の働く意欲は低いのではないかと、・働く上で男女差を感じているのではないかと、・女性の再就職は厳しい、など男女で働くことに関して意識の差があるように思われた。

10. 報告書刊行の予定と概要：  
 各自の卒業論文などに反映できるようにさらに指導する。

- <記入上の注意点>
1. 調査のテーマ毎に用紙を替えて(3つのテーマを立てて実施した場合は合計3枚に渡って)ご記入下さい。
  2. 最上部の\*印の箇所には数字を(「\*/)」には、報告書が複数枚になる場合のみ、3枚中の1枚目なら1/3とご記入下さい。
  3. 全ての項目について具体的にご記入下さい。但し、1テーマ毎に印刷が必ずA4サイズ1枚に収まるようにして下さい。フォントサイズは変えず(設定してある通りにして)、項目毎に分量に応じて「行の高さ」を変えることで調整していただけたら幸いです。
  4. 報告書はウェブ上で公開する予定です。また、調査実習情報をDB化することも検討しています。ご承知置きの上、ご記入下さい。